

花き

玉川大学農学部 生物資源学科  
植物機能開発科学領域・園芸植物学分野  
田淵 俊人

# わい化剤処理と 温室被覆材がアジサイ ‘万華鏡’の鉢物品質に 及ぼす影響

今年度は東京近辺ではスコールのような大雨が降ったり、蒸し暑い日が続いたり梅雨らしい風情が失われているように感じる。しかし、アジサイはハナシヨウブなどと並んで日本の梅雨を代表する園芸植物に変わりはしない。アジサイを鉢物として生産する場合には、草丈の調節にわい化剤の処理が必要になるが、鮮やかな花色の変化が失われたり、花器官が小さくなるなどの影響が懸念される。この点につき、島根農技セの加古ら（2014）は、わい化剤処理と温室被覆材の違いが植物体の生育や、花器官の形質に及ぼす影響を調べているので紹介する。

## ◆材料および方法

アジサイ品種として、‘万華鏡’を用いた。これは、島根県が育成した品種で、花卉中心部から外側の白い覆輪部分に向けて青色から白色へと変化するグラデーションが特徴の品種である。

1区4株を供試し、2012年4月16日に25×28×45mmのサイズのオアシスウエッジに挿し木を行い、5月16日に9cmのポリポットに無調整ピートモス、赤玉土、鹿沼土、腐葉土およびパーライトを配合した用土で鉢上げを行い、育苗した。2013年1月25日に15cmプラスチック鉢に育苗時と同じ用土で鉢替えを行った。

試験区は、ガラス室で栽培を行う区（以下、ガラス区）と、PEフィルム（シクスライトクリーンムテキ0.15mm厚）を張った温室で栽培を行う区（以下、PE区）の2区を設けた。

1月25日に各温室に鉢を搬入して、終日16℃で加温栽培を行った。

各温室ともに、4000ppmのダミノジッド水溶液を1回散布（2月12日）、2回散布（2月12日と2月21日）、および無処理の3区を設けて実験を行った。わい化剤はハンドスプレーを用いて1株当たり1回につき3mlを散布した。

また、青色の着色を促進するために、2000ppmの硫酸アルミニウム溶液を3月11日と3月21日に1株当たり300ml灌注処理を行った。

調査項目は、着色完了後の5月1日に新梢長、節数、葉色を調査した。花器官は、小花数、小花径、花卉中央部の花色とした。また、花の覆輪の状態は、明瞭に区別できる部分の幅を、花卉長径の中央位置で計測した。

## ◆結果および考察

〔1〕生育について  
新梢長は、ガラス区に比べてPE区で長くなった（それぞれ16.5cmと18.4cm）。しかし、わい化剤の処理によって短くなり、1回処理区よりも2回処理区のほうがより短くなった（ガラス区で、それぞれ13.2cmと11.5cm、PE区で17.5cmと16.1cm）。節数には差が認められなかった。

葉色は、ガラス区と比べてPE区で薄くなり、わい化剤を処理すると濃くなった。それは、1回処理よりも2回処理のほうが顕著であった。

## 〔2〕花器官の形質に及ぼす影響

花房長は、ガラス区に比べてPE区で小さくなった（18.9cmと16.8cm）。花房高と花房当たりの小花数は、ガラス区とPE区ともわい化剤処理で大きくなる傾向

が認められたが、有意差はなかった。小花数についても、有意な差は認められなかった。

## 〔3〕花色に及ぼす影響

L値は、ガラス区に比べて、PE区で低くなった。\*値も、ガラス区に比べてPE区で低くなり、花色は青色に変化した。

## 〔4〕覆輪幅に及ぼす影響

ガラス区に比べて、PE区で大きくなった（1.4mmと3.7mm）。わい化剤を使うことにより覆輪幅は小さくなり（0.9mm〜1.9mm）、特に1回処理よりも2回処理のほうが小さくなり、ガラス区では2回処理を行うと覆輪はほぼ消失することが明らかになった。

しかし、PE区ではわい化剤の1回処理、2回処理ともに覆輪幅は小さくなるが（3.7mmに対して、それぞれ1.9mm、1.0mm）消失することはなかった。

以上の結果から、‘万華鏡’では、わい化剤としてダミノジッド水溶液を処理することで、草丈を低くすることができるが、品種の特徴である覆輪幅が小さくなった。この解決方法として、被覆材のPEフィルムを用いると、ダミノジッド水溶液を処理

しても覆輪の消失を防ぐことができた。

アジサイは、かつてシールボルトも驚いたと言われる、いわゆる玉咲きの品種が日本の梅雨を表現するのにふさわしい風情を醸し出してきた。奈良、京都、鎌倉などの古都でも名物となつて定着している。

近年では、住宅事情もあつて室内で観賞できる鉢物品種も多く育成されている。特に、以前から、清澄沢、などに代表される、いわゆる覆輪を有する品種は人気が高いが（この品種は鉢物品種ではないが）、わい化剤を用いると覆輪が消失するのは問題である。

本品種のような覆輪幅を観賞価値とする品種では、生産時にはPEフィルムの利用は有効であろう。ところで、消費者が室内で観賞する場合は、覆輪の変化はどうであろうか、興味の尽きないところである。

## ■参考文献■

加古哲也・女鹿田博之・川村 通  
2014. 矮化剤処理と温室被覆材がアジサイ‘万華鏡’の鉢物品質に及ぼす影響. 園学研.13 (別1) 408.